

令和4年度 社会科 授業改善推進プラン

大田区立雪谷小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・社会科見学などは、社会状況を鑑み、行うことができなかったが、学習内容の関心・意欲を高めるために、実物教材の持ち込み、ICTの活用などの様々な手法を授業の中で取り入れた。
- どの学年でも「主体的に学習に取り組む態度」の項目で、全国・区の平均値より高い値を示した。
- ・社会的な事象とその要因とを関連付けて考えられるように、調べた事実から、働く人の思いや願いを考えさせたり、その工夫をノートや新聞作りに活用させたりした。また、資料となる写真と照合しながら、考察する活動を取り入れたり、資料を比較して読み取る活動を多く取り入れたりした。
- どの学年でも「思考・判断・表現」の項目で、全国・区の平均値より高い値を示した。
- ・日常のニュースと学習を関連付けたり、新聞を教室内に掲示したりして関心を広げる活動を行うなど、知識が深まったり日常生活と結び付けられたりできるようにした。また、地方ごとの都道府県の位置や名称について理解させるために、日本地図や地球儀を多く活用した。
- どの学年でも「知識・技能」の項目で、全国・区の平均値より高い値を示した。
- ・デジタル教科書を使うことで、グラフの読み取り方やグラフ同士の結びつきなどが指導しやすかった。

(2) 課題

- ・感染症による社会状況の変化により、社会科見学を行ったり、ゲストティーチャーを招いて学習を行ったりすることができなかった。そのため、実際に関係する人々の思いや願いと、社会的な事象を、実感をもって関連付けて考えたり、理解させたりすることが難しかった。
- ・資料を読み取る力を高めるために、意図的に地図を用いたり、グラフを掲示したりするような時間を設けてきたが、俯瞰的に把握することが難しい児童が一部いる。
- ・47都道府県名や、地形、海洋名の習熟については個人差が大きく、また、時間が経つと忘れてしまう傾向もみられたので、繰り返し学習しながら定着を図った。
- ・その時代の特徴や歴史上の事実、人物との関連など、1単位時間の中では定着させることができたが、一定期間がたった後や、過去に習ったことなどを忘れていく児童が多くいた。理解を深めたりしっかり定着させたりするためにも、教室掲示の工夫や時代同士を関連させて考える展開の工夫などをする必要性を感じた。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

※ ◎…目標値を上回った。 ○…目標値と同程度。 △…目標値を下回った。

	令和3年度結果	令和2年度結果	令和元年度結果
第4学年	◎		
第5学年	◎	◎ (第4学年時)	
第6学年	◎	◎ (第5学年時)	◎ (第4学年時)

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・目標値よりわずかに上回っている。知識・技能は、十分に身に付いている児童が多い。	・目標値より大きめに上回っている。思考・判断・表現は、十分に身に付いている児童が多い。	・目標値より大きく上回っている。主体的に学習に取り組む態度は、十分に身に付いている児童が多い。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 目標値より大きく上回っている。知識・技能は、十分に身に付いている児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 目標値より大きく上回っている。思考・判断・表現は、十分に身に付いている児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 目標値より大きく上回っている。主体的に学習に取り組む態度は、十分に身に付いている児童が多い。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 生活環境に関する活動では、人々の工夫や努力を理解させるために、出張授業での体験を通して実際に関係する人々に話を聞いたり、調べたりする機会を多く設ける。(指導計画・授業構成) まとめの活動では、知識を深めたり、日常生活と結び付けられたりできるように、キーワードを使って、関係図を作成したり、文章にまとめる活動を多く設ける。(指導計画・授業構成) 	<ul style="list-style-type: none"> 調べたことを白地図や表などにまとめる時間を設け、表現する技能を伸ばす。(指導計画) 社会的な事象とその要因とを関連付けて考えられるように、見学したことから、働く人の思いや願いを考えさせたり、その工夫をノートや新聞作りに活用させたりする。また、文書資料と表や図、グラフの資料を関連付けたりする。(指導計画・授業構成) 	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容の関心・意欲を高めるために、社会科見学や実物教材の持ち込み、ICTの活用などの様々な手法を授業の中で取り入れる。(指導計画・授業構成・学習環境) 日常のニュースと学習を関連付けたり、新聞を教室内に掲示したりして、児童が、日常生活と結び付け、関心を広げられる活動を行う。(指導計画・授業構成)

(2) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 世界における日本の位置や、地形、海洋名などについて、関連する授業の時に確認する時間をとる。(授業構成) 児童が目的をもって調べ学習を行い、必要な情報を資料から読み取れるように、学習課題に対して、予想する時間を毎時間設ける。(指導計画・授業構成) まとめの活動では、知識を深めたり、日常生活と結び付けられたりできるように、キーワードを使って、関係図を作成したり、文章にまとめたりする活動を多く設ける。(指導計画・授業構成) 	<ul style="list-style-type: none"> 調べたことを白地図や表などにまとめる時間を設け、表現する技能を伸ばす。(指導計画) 歴史や公民学習などにおいて、社会的な事象とその要因とを関連付けて考えられるように、関連する人々の思いや願いを考えさせたり、その工夫をノートや新聞作りに活用させたりする。また、文書資料と表や図、グラフの資料を、線を繋いだり、吹き出しを書いたりして、関連付ける。(指導計画・授業構成) 	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容の関心・意欲を高めるために、社会科見学や実物教材の持ち込み、ICTの活用などの様々な手法を授業の中で取り入れる。(指導計画・授業構成・学習環境) 児童が主体的に学習に取り組めるように、学習問題を解決するための計画を自分で考える場面を増やしたり、複数の資料を関連付けて、調べたいことや疑問に思ったことを整理することができるようにしたりしていく。(指導計画・授業構成) 日常のニュースと学習を関連付けたり、新聞を教室内に掲示したりして、児童が、日常生活と結び付け、関心を広げられる活動を行う。(指導計画・授業構成)

4 今年度授業改善プラン成果と課題

(1) 成果

- ・洗濯板や七輪を実際に使う昔の道具体験を通して、人々の知恵や工夫、努力や苦勞などを感じることができた。工場とのオンライン交流会や消防署見学では、働く人の思いや願いにリアルに触れることができた。また、そういった活動を通して、地域や大田区の学習を通して、地域社会の一員として生活していることに気付くことができた児童が多くいた。
- ・新聞づくりの活動を数回取り入れ、友達の作品を読み合うことを繰り返したことで、自分の学んだことを整理したり、まとめたりすることができるようになってきた。
- ・地図の見方やグラフや年表の読み取り方の指導を丁寧に行い、関連付けて考えることができるようになってきた。また、資料となる写真と照合しながら、考察する活動を取り入れることによって、社会的な思考、判断力を育むことができた。
- ・反復学習が必要な地名などは、クラスで定期的に問題をクイズ形式で出したり、毎回の授業の始めに地図帳で学習した内容と関連する地名を確認する活動を行ったりした。また、知識の定着を図るために他単元でも、関連する内容の既習事項を意図的に問いかけた。立体的な都道府県パズルなどの副教材も休み時間に楽しんでやっている姿が見られ、知識の定着に一役買ったと考えられる。
- ・実物教材の提示や ICT の活用などの様々な手法を授業の中で取り入れたことによって、学習内容の関心・意欲を高めることができた。
- ・食料生産や情報など可能な単元では、実際に起きたことと結び付けて学習を行うことで、児童が日常生活と学習内容を結び付けて学習することができた。

(2) 課題

- ・地図の見方やグラフや年表の読み取り方の指導を行ってきたが、理解の定着には、個人差があり、そこから関連付けて考えるまでに至らない児童も多いので、繰り返し指導していく必要がある。
- ・新聞にまとめたり、発表したりする際に、必要な情報を調べたり、表現したりする力が十分ではない児童が一部いた。
- ・日本の位置や、地形、海洋名などは、学習しても知識の定着が不足しているように見られた。指導の工夫が必要であると感じた。
- ・学習したことを新聞やワークシートにまとめることはできるが、自分の考えや調べた内容を分かりやすく表現する力が十分でない児童が一部いる。
- ・発表やレポート、新聞にまとめる際に、必要な情報を整理したり、表現したりする力が十分でない児童が一部いた。また、与えられたグラフや資料から考察する力が十分でない児童が一部いる。
- ・資料を読み取る力を高めるために、意図的に地図を用いたり、グラフを掲示したりするような時間を設けてきた。しかし、資料から事実を読み取ることはできても、すすんでその他の事象と比較したり、関係づけたりして、思考を広げることができる児童は少数だった。また、資料から読み取ること自体が難しい児童が一部いる。
- ・発表やレポート、新聞にまとめる際に、必要な情報を整理したり、表現したりする力が十分でない児童が一部いた。また、学習した事実を新聞やワークシートにまとめる力はついているが、その事実を踏まえて自分が考えたことを表現する力が十分でない児童がいる。
- ・近代史において、人物中心学習でなくなった途端、知識が定着しない児童が増える。特に明治時代に起こる事象は知識量も多く、より指導の工夫を図る必要を感じた。